

第2次宝塚市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の取組状況

5つの柱	目標を達成するための対策			取組		
	番号	施策	市の取組	令和5年度実績	令和6年度の取組状況及び予定	課名
1 地球温暖化防止を推進するための基盤の構築	1-1	地球温暖化対策を推進する制度の構築	国内外に向けて気候非常事態を宣言するとともに、ゼロカーボンシティを表明します。	ゼロカーボンシティ推進研修(職員向け研修。テーマは「本市における再生可能エネルギー設備導入の取組」。25名)を開催し、市事務事業における再生可能エネルギーや省エネルギー機器の導入状況や計画について理解を促す場とした。	・阪急電鉄で運行するSDGsトレインに、本市がゼロカーボンシティを目指すことのPRポスターを掲載予定。 ・職員向けにゼロカーボンシティ推進を目的とした研修を開催予定。	環境エネルギー課
			地球温暖化対策のための条例制定を目指します。	-	-	環境エネルギー課
	1-2	環境にやさしいまちづくりに取り組むづくり・交流の場づくり	ECO講座など環境保全のために中心になって活動する人を育てる仕組みを充実するとともに、活動の場をつくります。	令和5年度は合計7回の講座を実施し、20名参加のうち11名が修了認定(3分の2以上の出席)した。	令和5年度に引き続き、7回の講座を実施予定。 連続講座受講だけでなく各回の参加を一般公開とし、第4回時点で累計97人の参加があった。	環境エネルギー課
			市民環境フォーラムなど児童生徒や活動団体の発表・顕彰の機会・場をつくり、その活動を推進し、拡大します。	1団体の活動報告、兵庫県立宝塚北高等学校生物部による研究発表、神戸学院大学名誉教授である遠藤知二さんによる講演、環境啓発ポスターの表彰を行った。	12/7開催予定の環境フォーラムにおいて、環境団体の活動発表や学生の研究発表、環境啓発ポスターの表彰を行った。	環境エネルギー課
			地球温暖化対策など環境保全に関するイベントやセミナーの開催及び意見交換・交流の場をつくります。	「水辺の生き物探検」(7/23、63人参加)や「西谷のむし観察会」(9/23、41人参加)、「ホテル観賞のタベ」(6/6、6/7、2,641人参加)「親子で挑戦!エコ・クッキング」(8/12、5組12人参加)、「たからんまつり(ソーラートレイン等の啓発ブース)」(3/30、370名参加)などの、環境保全への意識向上につなげるイベントを実施した。	「水辺の生き物探検」(7/20、35人参加)、「ホテル観賞のタベ」(6/4、6/5、3,058人参加)、「西谷のむし観察会」(9/21、41人参加)、「親子で挑戦!エコ・クッキング」(8/2、3組参加)、地球温暖化防止啓発講演会「どうなる?どうする?地球沸騰化時代の到来」(9/14、50名参加)などの、環境保全への意識向上につなげるイベントを実施した。 また、11/17に気象予報士の正木明氏を講師に、地球温暖化防止啓発講演会「「過去に感謝、さあ地球の未来を知って、いい環境をこどもたちに残そう!」を開催(258人参加)。	環境エネルギー課
			気候変動・再生可能エネルギーなどについて気軽に知る・学ぶ・話し合うエネルギー・カフェを開催します。	-	-	環境エネルギー課
			市民、地域、活動団体、事業者、行政の環境保全に関する取組やイベントの情報を収集し、情報発信し、各主体間の交流や連携を促進します。	・環境都市宝塚推進市民会議の活動を通して、加入する保全団体、事業者間の連携を図っている。 ・市HP、X(twitter)、instagramを活用して温暖化対策の取組の関連情報を発信した。	・令和5年度に引き続き、加入する保全団体等と連携を図りながら交流・情報発信を促進していく。 ・市HP、X(twitter)、instagramを活用して温暖化対策の取組の関連情報を発信している。	環境エネルギー課
			出前講座の実施など地域における省エネ活動を促進します。	・出前講座の申込はなかった。	出前講座「みんなでつくろう宝塚エネルギー～再生可能エネルギー・省エネルギーでたからつかをもっとすっとげんきに～」 「地球温暖化の防止～省エネ・節電を実践しよう～」をテーマ設定しており、申込に応じて地域への説明を行い、省エネの意識情勢をはかる。	環境エネルギー課
			市民ボランティアとの協働により、小中学生への温暖化防止学習を実施します。	小学校教員の環境教育部会向けの研修として、地域エネルギー課職員がたからっ子エコライフノートを活用したモデル授業を小学校2校にて実施した。ノートはこれまで市内6小学校において授業で活用されている。	小学校教員の環境教育部会向けの研修として、環境エネルギー課職員がたからっ子エコライフノートを活用したモデル授業及び出前授業を小学校3校にて実施した。	環境エネルギー課
			緑化リーダーを養成します。	緑化モデル地区指定団体(119団体)を登録、花苗の提供等の支援を行った。	令和5年度に引き続き、花苗提供等の支援を行う。	公園河川課
地域緑化モデル地区を設定し、地域住民の積極的な緑化運動を推進します。	ボランティアによる運営の安倉フラワーカーデンを拠点とし、緑化を推進した。	令和5年度に引き続き、緑化基地を拠点とし、緑化を推進する。	公園河川課			

5つの柱	目標を達成するための対策			取組		
	番号	施策	市の取組	令和5年度実績	令和6年度の取組状況及び予定	課名
2. エコなライフスタイル・事業活動の実現	2-1	生活、事業活動における省エネ行動の推進	地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」を標語に、生活や事業活動でできる省エネの取組を分かりやすく紹介し、その実践を促進します。	庁内放送にて周知を行い、省エネの取組と実践を促進した。なお、環境省においては、令和5年度より「COOLCHOICE」を脱炭素につながる将来の豊かな暮らしを創る新たな国民運動「テコ活」に移行する旨の発表を行った。	「COOLCHOICE」の標語を用いていないが、省エネチャレンジだからづか2024等、省エネの取組を促す啓発事業を行っている。	環境エネルギー課
			広報だからづかや市ホームページ、FM宝塚を活用し、地球温暖化に関する市の排出量や施策などの情報を分かりやすく公表します。	市域における温室効果ガス排出量を広報誌や市HP、「宝塚の環境」で掲載し、啓発を行った。	市域における温室効果ガス排出量を広報誌や市HPに掲載することにより、脱炭素化に向けた啓発を行う。	環境エネルギー課
			行政の情報だけでなく、市民・事業者・NPOなどの取組活動を広報だからづかや市ホームページで紹介し、省エネの取組の輪を広げます。	—	市域の省エネにつながる市民等の啓発事業に対して後援を行い、広報誌等で事業の周知を支援する。10/26開催講演会「ブルーカーボンについて」へ後援を行った。	環境エネルギー課
			「省エネチャレンジだからづか」など市民の省エネ行動のインセンティブとなる事業を展開し、省エネの取組の裾野を広げるとともに定着を図ります。	省エネチャレンジ2023を実施し、市民300世帯の登録、うち225世帯から実績報告があった。	省エネチャレンジ2024を実施し、市民350世帯の登録、うち253世帯から実績報告があった。	環境エネルギー課
			子どもを対象とする市ホームページ「たからづかKIDS」の充実を図り、地球温暖化の現状や対策について情報発信するとともに、省エネの取組を呼びかけます。	ホームページ「たからづかKIDS」の地球温暖化、生物多様性についての掲載内容を更新した。	ホームページ「たからづかKIDS」の地球温暖化についての情報を最新とする。	環境エネルギー課
			市民のうちエコ診断 や事業者の省エネルギー診断 の利用促進を図ります	省エネチャレンジ2023における取組内容に「うちエコ診断の受診」を設定し、7世帯の受診があった。	省エネチャレンジ2024における取組内容に「うちエコ診断の受診」を設定し、6世帯の受診があった。	環境エネルギー課
			環境教育・学習を推進する環境教育・学習活動の支援	地球温暖化防止学習教材として作成した小学4年生向けの「たからっ子エコライフノート」につき、ノートが授業で活用されるため、小学校教員の環境教育部会向けの研修として、環境エネルギー課職員がたからっ子エコライフノートを活用したモデル授業を小学校2校（中山台、西谷小学校）にて実施した。	市立小学校及び特別支援学校の4年生に「たからっ子エコライフノート」を配布した。小学校教員の環境教育部会向けの研修として、職員がノートを活用したモデル授業を小浜小学校で実施し、各学校で取組を依頼し、76人からエコライフチェックを記入したエコライフノートの提出があった。	環境エネルギー課
	事業所に対して環境にやさしい通勤への協力を働きかけます。	—	—	環境エネルギー課		
	2-2	設備・機器や住宅・建物の省エネルギー化	ZEH、ZEH-M、ZEBの導入を促進します。	環境省の交付金を活用した「宝塚市地域脱炭素移行・再エネ推進助成金」において、個人及び事業者を対象に、ZEH導入支援を行った。（交付数10件）。また、令和3年度から実施している再生可能エネルギー基金を活用した助成金制度についても継続実施した（交付数6件）。	環境省の交付金を活用した「宝塚市地域脱炭素移行・再エネ推進助成金」において、個人及び事業者を対象に対する助成金を交付し、ZEH導入支援を行った。（交付決定件数7件）	環境エネルギー課
			高効率給湯機（エコキュート、エネファーム等）やトップランナー基準を満たす省エネ性能の高い家電への買替を促進します。	環境省の交付金を活用した「宝塚市地域脱炭素移行・再エネ推進助成金」において、個人を対象に、高効率給湯器（エコキュート及びエネファーム）の導入支援を行った。（交付数はエコキュート16件、エネファーム19件）	環境省の交付金を活用した「宝塚市地域脱炭素移行・再エネ推進助成金」において、個人を対象に、高効率給湯器（エコキュート及びエネファーム）の導入支援を行った。（交付決定件数はエコキュート2件、エネファーム18件）	環境エネルギー課
			省エネリフォームを検討する際に役立つ技術、効果、支援制度などについての情報提供を行います。	ZEHの環境性能、快適性や経済性等を紹介したホームページを作成し、周知を行った。	環境省の交付金を活用した「宝塚市地域脱炭素移行・再エネ推進助成金」において、エネファームやエコキュートの助成を行い、省エネ設備助成やリフォームの国交省補助事業についても説明を行った。	環境エネルギー課
			—	窓口や市ホームページで最新の支援制度に関する情報提供を行った。	窓口や市ホームページで最新の支援制度に関する情報提供を行う。	住まいづくり推進課
			HEMS、BEMSの普及促進により、消費エネルギーの見える化やエネルギー管理を推進します。	—	—	環境エネルギー課

5つの柱	目標を達成するための対策			取組		
	番号	施策	市の取組	令和5年度実績	令和6年度の取組状況及び予定	課名
2. エコなライフスタイル・事業活動の実現	2-3	環境学習・教育の推進	幅広い世代の人が楽しみながら地球温暖化対策を学べるイベントやセミナーを企画・開催します。	「親子で挑戦！エコ・クッキング」(5組参加)、「たからんまつり(ソーラートレイン等の啓発ブース)」(370名参加)といった幅広い世代が参加できるイベントを開催した。	「親子で挑戦！エコ・クッキング」(8/2。3組参加)を開催した。「たからんまつり」(3/29)では、ソーラートレイン等の啓発イベントを実施予定。	環境エネルギー課
			企業などと連携し、親子を対象とする地球温暖化対策などの環境学習会を開催します。	大阪ガスネットワーク(株)と連携して「親子で挑戦！エコ・クッキング」(5組参加)を開催し、エネルギーについて家族で考える機会とした。	大阪ガスネットワーク(株)と連携し、「親子で挑戦！エコ・クッキング」(8/2。3組参加)を開催した。	環境エネルギー課
			オンラインやインターネットを活用した啓発を充実させます。	市公式LINE等を用いて、イベントや助成金の周知をインターネットを活用して行った。	市公式LINE等を用いて、イベントや助成金の周知をインターネットを活用して行った。	環境エネルギー課
			市民、地域、活動団体、事業者、行政の環境保全に関する取組やイベントの情報を収集し、情報発信します。	環境都市宝塚推進市民会議で企画したイベント内容や、各団体の活動報告書を市ホームページに掲載した。市HP、X (twitter)、instagramを活用して温暖化対策の取組の関連情報を発信した。	環境都市宝塚推進市民会議で企画したイベント内容や、各団体の活動報告書を市ホームページで行う。市HP、X (twitter)、instagramを活用して温暖化対策の取組の関連情報を発信した。	環境エネルギー課
			出前講座が積極的に活用されるよう周知します。	出前講座のメニューに「みんなでつくろう宝塚エネルギー～再生可能エネルギー・省エネルギーでたからづかをもっと すっと げんきに～」 「地球温暖化の防止～省エネ・節電を実践しよう～」を掲載している。	出前講座のメニューに「みんなでつくろう宝塚エネルギー～再生可能エネルギー・省エネルギーでたからづかをもっと すっと げんきに～」 「地球温暖化の防止～省エネ・節電を実践しよう～」を掲載しており、要望に応じて説明を行う。	環境エネルギー課
			夏至の日からクールアース・デー (7月7日) までの期間、ライトダウンキャンペーンを実施します。	環境省では近年のLEDの普及状況を鑑みてライトダウンキャンペーンの呼びかけを終了したこともあり、本市においても実施していない。	環境省では近年のLEDの普及状況を鑑みてライトダウンキャンペーンの呼びかけを終了したこともあり、本市においても実施していない。	環境エネルギー課
			食育イベント、講演会、料理教室を通して、地産地消や環境にやさしい食への取組を推進します。	第3次たからづか食育推進計画 食育パネル展 期間：6月7日(水)から6月11日(日)まで 場所：逆瀬川アピア1-2 ふれあい広場 内容：地産地消・食品ロスに関する食育啓発パネルを展示	第3次たからづか食育推進計画 食育パネル展 期間：9月26日(木)から10月2日(水) 場所：逆瀬川アピア1-2 ふれあい広場 内容：地産地消・食品ロスに関する食育啓発パネルを展示	健康推進課
				食育パネル展 期間：11月2日(木)から11月15日(水)まで 場所：西公民館 3階ギャラリー 内容：第3次計画の重点目標の1つである「地産地消に意識しよう」をテーマにパネル展を開催 ・こんな野菜知ってる？ ・原木椎茸って？(原木椎茸の実物を展示) ・食べものすてるのもったいない食品ロスをなくそう 等食育啓発パネルを展示。(協力：食育関係団体8団体)	市内公立小学校における食育出前委講座 講話のメニューとして「地産地消ってなあに」「食品ロスについて学ぼう」など7メニュー、調理実習として7メニューを提案し、クラス単位、学年単位等での講座開催を募り、希望のあった小学校で啓発を行う予定。	
			大阪ガスネットワーク(株)と連携し、「親子で挑戦！エコ・クッキング」(5組参加)を開催し、地球に優しい食事のあり方についての啓発を行った。	大阪ガスネットワーク(株)と連携し、「親子で挑戦！エコ・クッキング」(3組参加)を開催し、地球に優しい食事のあり方についての啓発を行った。	環境エネルギー課	
小中学校における地球温暖化防止教育を充実させます。	地球温暖化防止学習教材として作成した小学4年生向けの「たからっ子エコライフノート」につき、ノートが授業で活用されるため、小学校教員の環境教育部会向けの研修として、環境エネルギー課職員がたからっ子エコライフノートを活用したモデル授業を小学校2校にて実施した。ノートはこれまで市内6小学校において授業で活用されている。	市立小学校及び特別支援学校の4年生に「たからっ子エコライフノート」を配布した。小学校教員の環境教育部会向けの研修として、職員がノートを活用したモデル授業を小浜小学校で実施し、各学校で取組を依頼し、76人からエコライフチェックを記入したエコライフノートの提出があった。	環境エネルギー課			
高校や大学における学生参加型ワークショップ形式で実施する断熱改修や再生可能エネルギー導入を支援します。	—	—	環境エネルギー課			

5つの柱	目標を達成するための対策			取組		
	番号	施策	市の取組	令和5年度実績	令和6年度の取組状況及び予定	課名
2. エコなライフスタイル・事業活動の実現	2-4	市の率優先的な対策の推進	環境マネジメントシステムの運用による省エネルギー、省資源を推進します。	各部署が資源・燃料・エネルギーの使用量を把握する「たからづかのエコチェック」により、環境マネジメントを行い、各事務事業における省エネ・省資源に努めている。また、環境監査についても実施した。	各部署が資源・燃料・エネルギーの使用量を把握する「たからづかのエコチェック」により、環境マネジメントを行い、各事務事業における省エネ・省資源に努めている。環境監査についても実施。	環境エネルギー課
			市職員への気候変動、エネルギーに関する研修を継続的に実施します。	ゼロカーボンシティ推進研修(職員向けに「本市における再生可能エネルギー設備導入の取組」をテーマ)を開催し、25名の参加があった。	ゼロカーボンシティ推進研修を開催予定(3/19)。	環境エネルギー課
			公共建築物への再生可能エネルギー導入ガイドラインに基づき、コージェネレーションシステム等を活用した省エネルギー化と太陽光発電等の再生可能エネルギー導入を図ります。	環境省地域脱炭素移行・再エネ推進交付金を活用し、くらんど人権文化センター他4公共施設へ高効率空調を導入し、スポーツセンター及び末広体育館へ高効率照明機器(LED)をリース導入した。太陽光発電設備の累積導入件数は23件(出力1kW以上)	環境省地域脱炭素移行・再エネ推進交付金を活用し、公共施設へ高効率空調を工事導入予定であり、高効率照明機器(LED)をリース導入(養護老人ホーム福寿荘及び健康センター)した。	環境エネルギー課
			省エネルギー診断の活用による高効率設備の導入、断熱改修、ESCO事業の実施などにより、公共施設の省CO2化を推進します。	環境省地域脱炭素移行・再エネ推進交付金を活用し、くらんど人権文化センター他4公共施設へ高効率空調を導入し、スポーツセンター及び末広体育館へ高効率照明機器(LED)をリース導入した。	環境省地域脱炭素移行・再エネ推進交付金を活用し、公共施設へ高効率空調を工事導入予定であり、高効率照明機器(LED)をリース導入(養護老人ホーム福寿荘及び健康センター)した。	環境エネルギー課
				LED更新事業について施設所管課に技術支援を行った。	LED更新事業について施設所管課に技術支援を行う。	施設マネジメント課
			公共施設のZEB化を進めます。	地域脱炭素移行・再エネ推進交付金を活用し、公共施設の省エネルギー設備の導入促進を図った。(7施設)。また、ゼロカーボンシティ研修等において、施設所管課へ交付金の活用や施設の省エネルギー化・再生可能エネルギー導入について啓発を行った。	施設所管課が交付金を活用し施設の省エネルギー化を推進するための啓発を行う。	環境エネルギー課
			避難所や公園への再生可能エネルギー導入を進めます。	R5年度の実施はなかったが、R3年度に公園へ10件の太陽光発電付きLED照明灯の設置があった。	—	公園河川課
			公用車として電気自動車、燃料電池自動車、ハイブリッド自動車など次世代自動車の導入を進めます。	ハイブリッド自動車を5台導入している。 EV車を1台導入し、職員に利用を呼びかけた。	各車両更新の際の選択肢の一つとして、次世代自動車の導入を検討する。 EVを利用してない部署に対し、EVの利用を呼びかける。	管財課 環境エネルギー課
3. 地域環境の整備・向上	3-1	公共交通機関や自転車の利用の推進	公共交通事業者などと協議し、公共交通機関の利便性向上に努めます。	公共交通事業者を含む宝塚市地域公共交通協議会にて、市民の日常生活に必要な「活動機会を保障」することをめざして宝塚市地域公共交通計画を作成し、令和5年4月に策定した。	令和5年4月に策定した宝塚市地域公共交通計画に基づき、市民の日常生活に必要な「活動機会を保障」することを目指す。併せて、山本地区、安倉地区において市立病院等への移動手段の確保の実証実験を行う。	交通政策課
			公共交通の空白地域・不便地域における路線バスの運行支援を行います。	西谷地区、山手地区(仁川・売布)と最寄りの鉄道駅を結ぶバス路線を確保するため、バス運行事業者へ補助を行った。また、月見山・長寿が丘地区については、国の地域内フィーダー系統確保維持国庫補助を受けられるように、申請手続きを行った。	昨年度に引き続き、運行事業者へ補助を行う。併せて、月見山・長寿が丘地区では、新たに市による補助を行い、バス路線の維持確保に努める。	交通政策課
			自転車レーンの整備など自転車通行空間の確保を推進します。	自転車ネットワーク計画を策定し、計画内での自転車通行空間の確保にかかる優先整備路線延長8.4kmのうち、3.7kmの整備を完了した。	引き続き自転車通行空間の整備を推進していく。	道路整備課
			コミュニティサイクルの事業参入に向けた検証などに協力します。	—	—	環境エネルギー課
			ノーマイカーデーを実施するとともに、自動車を利用しないエコ通勤を推進します。	たからっ子エコライフノートにおけるエコライフチャレンジの取組として、外出時に自動車ではなく公共交通機関を利用するように啓発を行った。	たからっ子エコライフノートにおけるエコライフチャレンジの取組として、外出時に自動車ではなく公共交通機関を利用するように啓発を行った。	環境エネルギー課
			自動車への依存を控え、できるだけ公共交通機関や自転車の利用、徒歩で移動する生活スタイルへ転換するよう呼びかけます。	阪神都市圏公共交通利用促進会議で発行する「阪神地域えきバスまっぴ。」を市役所窓口や各サービスセンター、サービスステーションで配布し、路線バスの利用促進に努めた。また、小学生を対象としたモビリティマネジメント教育を実施した。 たからっ子エコライフノートにおけるエコライフチャレンジの取組として、外出時に自動車を利用しないとの取組項目を設け、啓発を行った。	昨年度に引き続き、「阪神地域えきバスまっぴ。」の配布、モビリティマネジメント教育により、路線バスの利用促進に努める。 たからっ子エコライフノートにおけるエコライフチャレンジの取組として、外出時に自動車を利用しない取組項目を設け、啓発を行った。	交通政策課 環境エネルギー課

5つの柱	目標を達成するための対策			取組		
	番号	施策	市の取組	令和5年度実績	令和6年度の取組状況及び予定	課名
3. 地域環境の整備・向上	3-2	次世代自動車の普及促進、エコドライブの推進	次世代自動車に関する情報を発信し、普及に取り組みます。	令和5年4月に事業計画の採択があり、EV及び充電設備を支援する助成制度を行った。ただし、国要件が太陽光発電設備とのセット導入等が条件であったこともあり、申請件数は0件となった。ラッピングした公用EVを市内走行や、イベントでの展示、市HPでの情報発信を行うことにより、市民へのEV普及促進に取り組んだ。	引き続き、EV普及のため、イベント等における啓発を行う。令和6年度は、他課へEV及び外部給電器を貸し出し、イベント時における電源確保のため活用を行う予定（予定は1件）。	環境エネルギー課
			次世代自動車の充電インフラ整備を推進します。	電気自動車充電スタンド 市内28か所	電気自動車充電スタンド 市内32か所	環境エネルギー課
			公用車において、次世代自動車の導入をさらに進めます。	環境省交付金「重点対策加速化事業」等を活用し、公用自動車としてのEV及び充電設備を1台ずつ導入した。導入したEVに、EV車両であることや、宝塚の豊かな環境を守るメッセージを表現したラッピングを施しており、走行時やイベント時に市民に向けてEVの利用をPRした。	左記EVの走行やイベント時の利用を通じて市民へEVの利用を呼びかける。エコ×エネフェス(12/1、1,300人参加)に出展及びたからんまつり(3/29)にも出展予定。	環境エネルギー課
				ハイブリッド自動車を5台導入している。	各車両更新の際の選択肢の一つとして、次世代自動車の導入を検討する。	管財課
			エコドライブの方法や効果などについて情報発信します。	エコドライブやゼロカーボンドライブの方法や効果について、窓口前へのポスター掲示を行い、周知を図った。	エコドライブやゼロカーボンドライブの方法や効果について、窓口前へのポスター掲示を行い、周知を図った。	環境エネルギー課
	3-3	環境負荷を低減する都市づくり	公共交通事業者などと協議し、公共交通機関のネットワークの充実に努めます。	市内を運行する公共交通事業者と協議・調整を行い、公共交通機関のネットワークの維持確保に努めている。	昨年度に引き続き、公共交通事業者と協議・調整を行い、公共交通機関のネットワークの維持確保に努める。	交通政策課
			都市計画道路や主要な市道などで構成する道路網の計画的な整備を推進します。	市内の都市計画道路を効率的・効果的に整備推進するため、都市計画道路整備プログラムを策定し、順次整備を行うことにより、市内の計画延長53.8kmのうち、40.0kmの整備を完了した。	引き続き都市計画道路の整備を推進していく。	道路整備課
			公共交通で結ばれた各拠点に都市機能を集約するコンパクトシティを推進します。	立地適性化計画に基づき都市計画推進事業の実施を行った。	立地適性化計画に基づき、継続して都市計画推進事業の実施を行う。	都市計画課
			様々な交通手段をサービスと捉え、シームレスにつなぐMaaSの展開に参画します。	—	—	環境エネルギー課
				—	—	交通政策課
			電動スクーターなどの電動式マイクロモビリティの普及を促進します。	—	—	環境エネルギー課
	3-4	緑に恵まれた環境づくりの推進	「北雲雀さすきの森緑地」に代表される市民参加型の緑地保全を支援します。	風倒木の除去や、看板の設置など保全活動を円滑に行うための支援を行った。	令和5年度に引き続き、市民の円滑な緑地保全活動を行うための支援を行う。	公園河川課
			地域の緑化活動を支援するとともに、宅地の緑化を推進します。	生垣等緑化推進助成金を活用し、民有地緑化を推進する。令和5年度は1件あり、生垣等緑化推進助成金を活用した民有地緑化を推進した。	令和5年度に引き続き、生垣緑化助成金を活用し民有地緑化を推進する。	公園河川課
			里山、まち山の保全整備活動を支援します。	ホームページにて保全団体を紹介し、情報発信を行っている。	令和5年度に引き続き、ホームページにて保全団体の活動の情報発信を行う。	公園河川課
			生物多様性の観点から緑ゆたかな自然環境を保全します。	「水辺の生き物探検」(7/23、延べ63人参加)や「西谷のむし観察会」(9/29、41人参加)、「ホテル観賞のタベ」(6/6、6/7、2,641人参加)などの生物多様性を学ぶイベントを実施し、環境保全への意識向上につなげた。	「水辺の生き物探検」(7/20、35人参加)、「ホテル観賞のタベ」(6/4、6/5、3,058人参加)、「西谷のむし観察会」(9/21、41人参加)などの生物多様性を学ぶイベントを実施し、環境保全への意識向上につなげた。	環境エネルギー課
			森林環境譲与税の活用を幅広く検討し、間伐などの森林整備や人材育成・担い手の確保を支援するとともに、森林利用の促進、普及啓発に取り組みます。	森林環境譲与税を活用し、宝塚自然の家にアスレチックの設置、スポーツセンターに武道館の床張替を行った。	ひょうご里山フェスタの実施による普及啓発、宝塚自然の家の里山整備に活用予定。	農の魅力創造課

5つの柱	目標を達成するための対策			取組		
	番号	施策	市の取組	令和5年度実績	令和6年度の取組状況及び予定	課名
3. 地域環境の整備・向上	3-5	農地の保全・活用	温室効果ガスの削減、農業の振興、食育などの観点から、地産地消を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 農作物被害を減らし農業者の所得向上を実現するため、有害鳥獣の捕獲を行い、定期的に被害状況の調査を実施している。 令和5年度現在、地産地消レストランは1軒営業。 食育については市内の小中学校に西谷産の農作物を給食に活用したり、西谷地区の農家によるゲストティーチャー授業を実施したり、子どもの食育に寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き農作物被害減少を目的に有害鳥獣捕獲を実施し、秋の収穫期以降に被害状況の調査を実施予定。 定期的に朝市を実施し、西谷地区の野菜を南部に販売する活動を実施予定。 	農の魅力創造課
			学校給食において地元産食材の利用を進めます。	市内の小中学校の給食において「地産地消給食」として、兵庫県産の農産物を定期的（月1回程度）に利用するとともに年4回西谷産米を使用した。	令和5年度に引き続き、「地産地消給食」を実施する予定。	学事課
			学校給食において地元産食材の利用を進めます。	市内の小中学校を対象に「地産地消給食」として、西谷産の農産物を市内の小中学校で定期的に利活用を行っている。また、西谷地区の農家による農産物等に係る講義や実習体験の指導を行うゲストティーチャー授業も継続して実施している。	市内の小中学校を対象に「地産地消給食」として、西谷産の農産物を市内の小中学校で活用予定。	農の魅力創造課
			伝統と技術を継承している「花き・植木」を活用した緑化を推進します。	宝塚植木まつりを4月と10月の2回開催し、第138回（4月）は20,000人来場、第139回（10月）は18,000人来場した。また、宝塚オープンガーデンフェスタ（参加庭主72人）を4月と5月に開催した。	引き続き、宝塚植木まつりと宝塚オープンガーデンフェスタを実施し、花と緑のある生活を推進する予定。	農の魅力創造課
			市民農園の利用を推進します。	市内10農園（うち市直営2農園）計252区画の市民農園の募集を行い、利用いただいている。（農園利用率100%）空きがあれば、ホームページ等で追加募集をした。	引き続き、市内10農園（うち市直営2農園）計252区画内で空きが出る農園について、市民農園の募集を行い、利用いただく予定。空きがあれば、ホームページ等で追加募集をする。	農の魅力創造課
			西谷地区のソーラーシェアリングの普及啓発、市内外への情報発信に取り組みます。	西谷地区のソーラーシェアリングについて、市ホームページで周知を行っている。	西谷地区のソーラーシェアリングについて、市ホームページで周知を行っている。市内事業者が採択を受けた農林水産省補助事業の会議に参加した。	環境エネルギー課
4. 再生可能エネルギーの利用の推進	4-1	住宅・事業所における再生可能エネルギーの導入推進	太陽光発電設備と蓄電池（家庭用、電気自動車）の組み合わせによる導入を推進します。	阪神各市町と新たに明石市を加えた兵庫県内10市町と連携して太陽光発電及び蓄電池設備の共同購入支援事業を実施、199件の参加登録者中、15件で設備導入があった。	<ul style="list-style-type: none"> 兵庫県内14市町と連携して太陽光発電及び蓄電池設備の共同購入支援事業を実施している。 環境省の交付金を活用した「宝塚市地域脱炭素移行・再エネ推進助成金」において、太陽光発電設備と蓄電池の導入支援を行った。（交付決定件数17件） 	環境エネルギー課
			ZEH、ZEH-M、ZEBの導入を促進します。	環境省の交付金を活用した「宝塚市地域脱炭素移行・再エネ推進助成金」において、市民または販売事業者を対象としたZEHの導入支援を行った。（交付数14件（すべて市民））	環境省の交付金を活用した「宝塚市地域脱炭素移行・再エネ推進助成金」において、市民または販売事業者を対象としたZEHの導入支援を行った。（交付決定件数7件（すべて市民））	環境エネルギー課
			家庭用燃料電池システム（エネファーム）の導入を促進します。	環境省の交付金を活用した「宝塚市地域脱炭素移行・再エネ推進助成金」において、市民を対象としてコージェネレーションシステム（エネファーム）の導入支援を行った。（交付数19件）	環境省の交付金を活用した「宝塚市地域脱炭素移行・再エネ推進助成金」において、個人を対象に、エネファームの導入支援を行った。（交付決定件数は18件）	環境エネルギー課
			太陽熱利用システムや薪ボイラー、ペレットストーブの導入を促進します。	—	—	環境エネルギー課
			再生可能エネルギー由来の電気購入を促進します。	—	—	環境エネルギー課
	4-2	地域資源を活用した再生可能エネルギーの推進	木質バイオマス資源の活用を、県や近隣市町と連携を図りながら、地域とともに検討します。	市北部地域の県有林における兵庫県の木質バイオマス有効利用事業につき、令和4年8月から玉瀬地区において伐採・チップ化・乾燥試験が行われていたが、令和5年度末で事業期間は終了し、一定品質以上のチップ生産を行うための知見が得られた。市は、県と協力体制をとり、同事業の住民理解を得るために説明会の開催等に同席した。	令和6年度から、事業者は、引き続き玉瀬地区県有地において県有林の伐採を続け、森林再生の持続性を目的とした新NEDO実証事業（エネルギーの森実証）事業に取り組んでいる。市は、住民理解等の観点から県に協力しており、6月30日に事業進捗に関する住民説明会を県と共催した。	環境エネルギー課
		牛など畜産ふん尿の活用による再生可能エネルギー導入を、地域とともに検討します。	—	—	環境エネルギー課	

5つの柱	目標を達成するための対策			取組		
	番号	施策	市の取組	令和5年度実績	令和6年度の取組状況及び予定	課名
4. 再生可能エネルギーの利用の推進	4-2	地域資源を活用した再生可能エネルギーの推進	西谷地区のソーラーシェアリングの普及啓発、市内外への情報発信に取り組みます。	西谷地区のソーラーシェアリングについて、市ホームページで周知を行っている。	西谷地区のソーラーシェアリングについて、市ホームページで周知を行っている。市内事業者が採択を受けた農林水産省補助事業の会議に参加した。	環境エネルギー課
			再生可能エネルギー事業立ち上げのための人材育成講座を開催します。	—	—	環境エネルギー課
			エネルギー利用・消費に関するデータを公開し、地域課題の解決に向けた研究やビジネスでの活用を促進します。	—	—	環境エネルギー課
5. 環境への負荷を低減する循環型社会の形成	5-1	ごみの減量化の推進	市民、事業者に対し3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取り組みを推進し、ごみの減量化を進めます。	リユース事業者2社と協定を締結し、市民への啓発を行った。3R推進事業に関する後援名義取扱要綱を策定し、後援事業を開始した。	市ホームページに3R推進事業に関するページを開設し、引き続き広報たからづか、市ホームページなどで啓発を行う。	クリーンセンター管理課
			市民、事業者に対し分別の徹底を啓発し、燃やすごみの削減を行います。	広報たからづか、WEBページなどを利用し、市民、事業者に啓発を行った	引き続き、広報たからづか、市ホームページ等を通じて市民、事業者に対し分別の徹底を啓発し、燃やすごみの削減を行う。	クリーンセンター管理課
			ごみ処理の実態を見学してもらい、ごみの削減の必要性と分別の重要性の啓発に努めます。	工事中のため見学を中断している。	新施設整備中につき見学は中止しているが、地域へアウトリーチ型の説明を順次行う。	クリーンセンター管理課
			事業所への直接啓発を行います。	紙ごみを含めてごみの分別等について事業所向けパンフレットを配布	引き続き事務所への啓発を実施する。	クリーンセンター管理課
			減量のインセンティブとして手数料の見直しを行います。	手数料の見直しについて審議会で諮問を行い、答申を得た	令和6年度に手数料見直しに係る条例を改正し、令和7年4月1日から施行する。	クリーンセンター管理課
			集団回収、店頭回収の利用促進を進めます。	広報たからづか、WEBページなどを利用し、市民に啓発を行った	引き続き、広報たからづか、市ホームページ等を通じて集団回収、店頭回収の利用促進を進める。	クリーンセンター管理課
	5-2	ごみの資源化の推進	集団回収奨励金制度 など市民のリサイクル活動の支援を行います。	R5年度は集団回収で、4371 tの資源ごみを回収した。	引き続き、集団回収を通じて市民のリサイクル活動の支援を行う。	クリーンセンター管理課
			市民、事業者に対し3Rの取り組みの推進し、ごみの資源化を啓発します。	広報たからづか、WEBページなどを利用し、市民、事業者に啓発を行った	引き続き、広報たからづか、市ホームページ等を通じてごみの資源化を啓発する。	クリーンセンター管理課
			クリーンセンターでの処理において資源ごみのリサイクルに努めます。	各資源ごみ種別ごとに選別を実施した。	引き続き、資源ごみのリサイクルに努めるとともに、市民に対してごみ分別の啓発に努める。	クリーンセンター管理課
			生ごみのコンポストづくりを推進します。	ウェブサイト、コンポスト作りの紹介を行った	令和6年度は包括連携協定を締結している事業者がサステナビリティ経営方針の一環として、地域で市民向けコンポストの取り組みを実施しており、後援事業として併走支援を行う。	クリーンセンター管理課
	5-3	ごみの適正処理の推進	安定、確実な収集を実施します。	直営、委託業者5社及び、紙布ごみは宝塚市工コリサイクル事業協同組合に依頼し、年末年始を除く月曜日～金曜日は収集作業を行った。	直営、委託業者5社及び、紙布ごみは宝塚市工コリサイクル事業協同組合に依頼し、年末年始を除く月曜日～金曜日は収集作業を行った。	クリーンセンター業務課
			福祉収集の充実を努めます。	親族や身近な人等によるごみ出しの協力が得られず、かつ、日常のごみの排出が困難な高齢者又は障害者に対して、戸別に玄関先までごみ収集を行い、ごみステーションにごみ出しできない人のごみ収集を助けること及び希望する人に対して安否の確認を行った。令和6年3月末時点の利用者949名。きずな収集とは別に、コロナが第5類に移行されてから室内からの粗大ごみ運び出し収集を再開した。	親族や身近な人等によるごみ出しの協力が得られず、かつ、日常のごみの排出が困難な高齢者又は障害者に対して、戸別に玄関先までごみ収集を行い、ごみステーションにごみ出しできない人のごみ収集を助けること及び希望する人に対して安否の確認を行っている。きずな収集とは別に、コロナが第5類に移行されてから室内からの粗大ごみ運び出し収集を再開した。	クリーンセンター業務課

5つの柱	目標を達成するための対策			取組		
	番号	施策	市の取組	令和5年度実績	令和6年度の取組状況及び予定	課名
5. 環境への負荷を低減する循環型社会の形成	5-3	ごみの適正処理の推進	資源ごみのリサイクルを効率的に実施します。	危険物等を事前除去する等を行うことで効率的に処理した	令和6年度からは民間事業者による処理となったため、効率的に実施するため指導を行う。	クリーンセンター管理課
			燃やすごみを安全に焼却処分します。	燃やすごみ以外のごみを排除を行い、ごみの攪拌を行い、安定操業に努めた	引き続き、新しい施設が完成するまでの間、安定操業のための適正な管理に努める。	クリーンセンター管理課
			焼却灰を大阪湾フェニックス埋め立て処分場で適切に処分します。	大阪湾フェニックスの受入基準と搬入検査に適合するよう処理を実施し、適切に処分した	引き続き、大阪湾フェニックス埋め立て処分場で適切に処分する。	クリーンセンター管理課
			新ごみ処理施設では、ごみを焼却するときに発生するエネルギーを高効率発電により可能な限り電力に変換し、サーマルリサイクルを行います。	令和5年度は仮設リサイクル処理場工事のため、実績がありません。	<p>新ごみ処理施設のエネルギー回収推進施設では、以下のとおり、ごみ焼却による熱エネルギーの回収を最大限（回収率26.1%）に高めるとの提案が事業者からあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温高圧蒸気で発電量が増大。（4,740kWの蒸気タービン発電機） ・全水冷壁を採用し、熱回収最大化することで、発電量増大。 ・無触媒脱硝（炉内への尿素吹込み）採用で触媒脱硝設備が不要、加温のための蒸気利用も無いため、発電量が増大。 ・低温工コノマイザにより排ガスを大幅に減温し、減温塔が不要となる。これにより、排ガスを削減し、排ガスを削減することで消費電力を削減でき、熱回収量を最大化することで発電量が増大。 ・蒸気を使わない圧力波式スタートフロフを採用し、従来の蒸気式スタートフロフでロスしていた蒸気を発電に利用できるため、発電量が増大。 	クリーンセンター施設建設課
			太陽光発電など、再生可能エネルギーの利用について検討します。	令和5年度は仮設リサイクル処理場工事のため、実績がありません。	<p>新ごみ処理施設のエネルギー回収推進施設では、以下のとおり、自然エネルギー技術の導入についての提案が事業者からあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集車車庫棟の屋上に太陽光発電設備を設置 ・外灯に太陽光LED外灯を採用 ・施設内歩道に舗装型太陽光パネルを設置 ・太陽光を活かしたトップライト（自然採光）を採用 ・マイクロ風力発電機の設置 ・洗面所を節水型・自己発電式設備とし、省資源化 ・車庫棟に電気不使用の換気口を設置し、自然換気 ・見学者通路及び居室にLow-Eガラスを採用し、高断熱と遮熱を両立する ・屋上緑化による断熱効果により、空調負荷を低減 ・保水性舗装を採用し、舗装表面の湿潤状態を保った涼しく快適な屋外空間を実現 	クリーンセンター施設建設課
			省エネ性能に優れた施設とします。	令和5年度は仮設リサイクル処理場工事のため、実績がありません。	<p>新ごみ処理施設のエネルギー回収推進施設では、以下のとおり、自然エネルギー技術の導入についての提案が事業者からありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集車車庫棟の屋上に太陽光発電設備を設置 ・外灯に太陽光LED外灯を採用 ・施設内歩道に舗装型太陽光パネルを設置 ・太陽光を活かしたトップライト（自然採光）を採用 ・マイクロ風力発電機の設置 ・洗面所を節水型・自己発電式設備とし、省資源化 ・車庫棟に電気不使用の換気口を設置し、自然換気 ・見学者通路及び居室にLow-Eガラスを採用し、高断熱と遮熱を両立する ・屋上緑化による断熱効果により、空調負荷を低減 ・保水性舗装を採用し、舗装表面の湿潤状態を保った涼しく快適な屋外空間を実現 	クリーンセンター施設建設課
			安定した発電ができるよう、ごみの攪拌等に努め、安定運転を	R5年度、7530MWhの発電を行った。	引き続き、安定供給が図れるよう、安定操業に努める。	クリーンセンター管理課
省エネを心掛けた運転を行います。	発進時に最も多くの燃料を消費するため、車のエコモード機能を利用し急発進を行わない運転を行っている。	発進時に最も多くの燃料を消費するため、車のエコモード機能を利用し急発進を行わない運転を行っている。	クリーンセンター業務課			